

グループスーパービジョンのステップ (約60分)

① 準備 3～5分

ステップ1：事例様式の提出・事例様式を読み込む

② 報告・確認セッション 10分程度

ステップ2：スーパーバイザーの提出した意図や理由、出席者に求める助言は何かを伝える。
求める助言に対する質問や意見交換

ステップ3：現状やすでに取り組んだことは何かを簡潔に説明する。

③ 質問・確認セッション 15～20分

ステップ4：スーパーバイザーの求めることを考えるために、確認が必要な事項や追加情報を質問する

④ アイディア出し・ブレインストーミングセッション 15～20分

ステップ5：一人称で、スーパーバイザーの求めるアイデアを出す。

⑤ 応答セッション 3～5分

ステップ6：示唆されたことに基づいたわたしのきづきや次回以降に具体的に行うことは何か

○グランドルール

- ① 端的に発言する（最長30秒！）。
- ② 積極的に参加し、たくさん発言し、笑いましょう。
- ③ 否定的な発言はしない。受容的な雰囲気を作成する。
- ④ 求められたゴール・課題に向けて発言する。
（自分の興味・関心で発言するのではない！）
- ⑤ 多様な意見が場に出るようにつとめる。
（自分ばかりが発言しないよう留意する。）
- ⑥ できるだけ、根拠を持って発言する。
- ⑦ 時間を守る（ファシリテータが時間管理します）

3

○演習時の基本的視点

- ① 個別性の重視
- ② 生活者視点、QOLの重視
- ③ 本人主体、本人中心
（児童事例は親権の問題もあり、親の思いなどにも留意）
- ④ 自己決定(意思決定)への支援
- ⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目
- ⑥ 権利擁護(アドボカシー)
- ⑦ 地域の多様な資源へのアクセスと活用、資源開発
- ⑧ チームアプローチ、多職種連携

4

グループスーパービジョンの進め方例

5

Step I : 準備配布

※全体を通して、よい雰囲気づくりにつとめる。

事例提供者

- グループ人数分配布資料を用意し、配布。

Gメンバー

- 必要に応じて自己紹介をする

S
V

- 研修出席者の経験値や先輩後輩、上司や部下などの関係性から起こる遠慮などは不要であることを明確に確認する（※「発言の保障」－多様な発言を促すため。：通常、人は職場では無知・無能・ネガティブ・邪魔な人とは思われたくないはずです。発言をすることで、そのように捉えられてしまうようなチームの雰囲気は消す必要があります。）
- 事例提供者の提出意図に沿って検討することも明確に確認する。

6

Step2：報告セッション

- 本人の思いや現実とのギャップ、支援者としての悩みや迷いなど、助言が欲しいことを端的に説明する。
- 単なるシートの読み上げとならないよう、「簡素なスケッチ」をイメージし、報告する。

- 報告の間は発言しない（黙って聴く）。

- 全員が時間内での進行を意識するよう促す。
- 事例提供者の求めている事柄に丁寧に焦点を当てる（利用者自身の事柄なのか、自分自身の事柄なのかなど）
- 支援対象者を整理し、焦点化する場合もある。（家族全体・児童・雇用主など）

7

Step3：質問セッション ①

- グループメンバーからの質問に端的にテンポよく答える(原則一問一答)。
- 質問された内容以上の回答や説明は控える。
- わからないことはわからないと答えてよい（推測による回答は避ける）。
- アセスメントに穴があることは当たり前のことと捉える。

- 事例の要点、判断理由などの欲しい追加情報や不明点等について、簡潔に質問する(原則一問一答)。
- 提出意図に焦点をあて、自分なりの本人像の組み立てのために（意図・根拠をもって）質問。
- ただし、質問の根拠は省略し、求めたい内容のみ質問する。
- これまでの講義などで提示された、視点に沿って質問する。

8

Step3：質問セッション ②

- 本人像の共有から始め、徐々に環境やストレングスに着目した質問を促す。
- 問題やマイナスの情報だけに焦点を当てないように注意する。
- 自分が次のセッションで意見やアイデアを述べるための情報を探る。
- 経験不足などから、アセスメントに不足が多くても非難せず、どのようにすれば情報を集められるかを意識する。

9

Step4：ブレインストーミング ① (バズセッション)

- このセッションでは発言・反応しない。
 - 黙って聴き、出された発言(本人像・アイデア等)を箇条書きにしながらか記録する。(ナンバリングしておく、整理しやすい)
 - セッション終了後に確認したいことや質問があればメモを取る。
- 水平の立場で発言。事例提供者や他の出席者の批判をしない。
 - 積極的に発言する。
 - 自分の発言が少ないと感じたら、思ったことを口にしてみるとよい。
 - 端的にテンポよく発言する。
 - 事例報告者の方を向かずに発言する。
 - より具体的・創造的な発言がよい。

11

Step4：ブレインストーミング ② (バズセッション)

- 自分であれば、どのようにするか一人称で話す。
- まずは実現可能かどうかや制度のことは考えず、思いつくままに自由に発言させることを促す。
- 徐々に具体的な方法や助言になるよう、意見を具体化させゆく。

※他の人の良い着眼点やアイデアをさらに展開させたり、今まで提示されていない視点・ストレングスに転換してみることも効果的。

12

Step5：応答 今後の取り組み

- 出された本人像やアイデア、解釈や意見に対し、応答する。
- 次回の課題に向け、(次いつ会うか・)どのような関わりをしてみようと思うか具体的に表明する。

- 事例提供者だけではなく、出席者全員に気づきがあったか確認する。
- 事例提供者がうまく気づけない場合には、スーパーバイザーがまとめたり、促しを行う。

- 事例提供者だけではなく、出席者全員に気づきがあったか確認する。
- 事例提供者がうまく気づけない場合には、スーパーバイザーがまとめたり、促しを行う。

13

GSV報告様式

2019年 12月 11日		何回目	1		提出者名	広瀬	
(仮名)	エリカさん						
年齢	24	性別	女	障害名	軽度知的障害の疑い		
家族構成(ジェノグラム) ※手書き可				エコマップ			
提出理由 (支援者自身が困っていること)							
1年ほど前に、担当したエリカさんと関係が作れず悩んでいます。どうしたら本人との関係が作れて支援を受けてもらえるだろうか悩んでいます。							
本人の生活に対するイメージ				本人の言葉や行動			
(母)娘が風俗で働いている。辞めさせたいが言うことを聞かない。どうしたらよいか？相談員からも言って辞めさせてほしい。どこかで働かせたい。 (本人)一人暮らしがしたい。彼氏が欲しい。お金が欲しい(小遣いが足りない)							
経過と現状(概要)							
一年ほど前に、母に連れられて来所した。近所の人から相談支援事業所に行くことを勧められてきた。どこでもいいから働かせたい。娘が風俗で働いているので、辞めさせたいが言うことを聞かない。相談員からも注意して、辞めさせてほしいとのことであった。初回の面談中から、まっすぐに座らず、いつも横向きでいることが多い。「お金が欲しい」とのことなので、作業所を勧め、見学に連れて行ったが気に入らないとの理由で、6箇所全部断った。希望を聞くといつも、「小遣いが欲しい」「彼氏が欲しい」というばかりである。友人は数名いてダンスグループになっていて、地元の不良グループとの付き合いとなっている。そのため、ほぼ毎日夕方まで寝ていて、夜は友人と遊んでいるようで深夜や朝方に帰宅することが多い。母親は、勤務時間が長いと、すれ違いになることも多い。 生育歴は、未熟児で出生し、小学校4年生で特別支援学級へ変更になった。当時は父親が反対し、知的障害の手帳が取れなかった。現在は、母親が同意したことにより障害者手帳の申請だけは進めている。地元高校に入学するが3年生で中退(理由いじめ)し、引きこもり気味になった。父親とは離婚し疎遠状態。母親が強く小言を言うので、最近では親子の会話もほとんどないとのこと。							
ストレン グ ス	性格・人柄／個人的特性			才能・素質			
	環境のストレングス			興味・関心／向上心			
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学時代の先生が好きでとても信頼していた 			<ul style="list-style-type: none"> ・ディズニーランド ・マクドナルド 			